

# 第9回 弓浜助け合いネットワーク

## ～いつまでも 地域で、在宅で～

【主催】米子市(米子市弓浜地域包括支援センター)、弓浜助け合いネットワーク実行委員会  
 【共催】社会福祉法人真誠会、NPO法人がいなネット、在宅医療連携拠点事業コスミックリンク 【後援】米子市社会福祉協議会

米子市弓浜地域の住民、行政、専門機関が連携して地域づくりを考えるシンポジウム「第9回弓浜助け合いネットワークの会」が11月19日、同市大崎の弓浜ホスピタウンで開かれた。「いつまでも 地域で、在宅で」をテーマに、基調講演や認知症への理解を深める寸劇、意見交換会などが行われ、ますます重要になる助け合いの社会について理解を深めた。



認知症理解寸劇「やっぱ家はいいねえ」



認知症について理解を深める参加者

「いつまでも在宅で、そして最期には家で迎える社会が必要だ」という大きなテーマとして、「在宅で医療を受けながら生活する」ということと「認知症」という大きな課題を抱えています。

私は厚生労働省認定の「認知症サポーター」の一人として、認知症の早期発見に努めてきました。問題は、認知症の方を地域でどう受け入れ、向き合うかです。弓浜地区では9年前からこの会で、地域をあげて認知症のことを勉強してきました。

病気になるっても家で過ごせる社会を作ってほしい。近い将来グループホームも満床となる地域でみて、認知症の方が地域で生活出来るようにしてほしい。そのために包括支援が必要となるわけです。

変わる介護保険  
 介護保険で要支援も受けていない皆さんは、

「互助」とは、地域の活動で助け合っていくこと。「共助」とは保険、介護保険など、「公助」とは政府がお金を出す生活保護などです。

「互助・共助・公助」という言葉があります。「互助」とは、自分の力で生きていく。「共助」は地域の活動で助け合っていくこと。「公助」とは保険、介護保険など、「公助」とは政府がお金を出す生活保護などです。

**主催あいさつ**

米子市長  
野坂 康夫

「弓浜助け合いネットワーク」は、今回で9回目となりましたが、毎回多くの皆さんに参加いただいております。この取り組みを続けていくことで、地域住民の皆さんの支えあう気持ちが芽生え、実際に支えあう地域ができていくと感じています。

認知症になっても住み慣れた地域、自宅で安心して暮らせるまちづくりを推進するには、認知症への正しい知識の普及と理解の促進を図り、地域資源を活用し、それらをネットワーク化することにより、認知症の人を支える体制をつくること、これが大切だと考えます。

今後も認知症の正しい知識の普及を図り、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

## 弓浜地区モデルを全国へ

この弓浜地区にある和町、複合型サービス施設を中心に、「ふさと祭り」や「和町で盛り上げよう」プロジェクトで盛り上げられています。平成23年には米子市の認知症徘徊見守り模範訓練や和町津波避難訓練が行われ、お互いの助け合いの気持ちがあつたからこそ開催できたことです。

「互助・共助・公助」という言葉があります。「互助」とは、自分の力で生きていく。「共助」は地域の活動で助け合っていくこと。「公助」とは保険、介護保険など、「公助」とは政府がお金を出す生活保護などです。

「互助・共助・公助」という言葉があります。「互助」とは、自分の力で生きていく。「共助」は地域の活動で助け合っていくこと。「公助」とは保険、介護保険など、「公助」とは政府がお金を出す生活保護などです。

**基調講演**

「ますます重要になった助け合い社会」

医療法人社会福祉法人真誠会理事長 小田 貢

お互い助け合う社会は「住民参加型」です。助け合うから「近助」です。そうすると何か起きたときに防災力のある地域として、また日々を声を掛け合い助け合うことができます。

日本の「平均寿命」が延びています。元気で延びても寝たきりになってもひっくり返るまで平均寿命に入っています。「健康寿命」は自分のことは自分でできる寿命。平均寿命で生きているのではなく、健康寿命を延ばすことが大切です。

さらにのぞむなら、自分のことできる健康寿命を延ばすだけではなく、「社会活動寿命」、つまり人のために役に立つ寿命を延ばしましょう。

**エンディング**

報道で皆さんご存じだと思いますが、島倉千代子さんが、最初の3日前に言葉と歌を残して亡くなりました。伝えていこうと残しておいたことが安心されました。一人でも静かに死ぬことは一つの死に方として受け入れられつつあります。「エンディングノート」をつけて、「ありがとう」として思い出さず一言添えておかれるのも良いでしょう。

皆さんは、まだ人のために尽くす体力とエネルギーがあります。自分のことは自分で、地域のこと人のことを考え、地域で助け合っていく社会をこの弓浜地区から米子市へ、鳥取県へと広げていきましょう。それが弓浜助け合いネットワークの精神です。

たとえ一人でも最期まで地域で、在宅で暮らせる社会を作り、弓浜を住み良い場所にしていきましょう。

### 意見交換会

「意見交換会」では、弓浜地区で寝たきりの夫を長らく介護している家族の木村順子氏の体験を通して介護家族や主治医らが問題点について話し合った。

小田 貢  
 「地域で」在宅でも助け合い、社会的支援を使いながら幸せな人生を最期まで過ごす。弓浜地区が安心して暮らせる場所になることを願っています。

木村さんのご主人は、認知症はなく、体を動かすことができず、在宅の患者さんです。病状が安定して家に居られる時は、私が主治医で週1回診察しています。

吉野 靖子氏  
 認知症地域支援推進員  
 認知症は国の事業で行っています。基本的に認知症の方が第一となり、木村さんのような家庭からの相談も受け付けています。この弓浜地区のように、皆さん

木村さんのご主人は、認知症はなく、体を動かすことができず、在宅の患者さんです。病状が安定して家に居られる時は、私が主治医で週1回診察しています。

廣田 裕氏  
 とみすま外科  
 フライマリークリニック院長  
 われわれ在宅医が一番怖いのは緊急事態の時です。そのとき医療がどれだけ速やかに対応できるかが一番大事になります。今は小田先生の真誠会で引き受けていただけて助かっています。受け皿があるということが非常に重要です。

夫は訪問看護やデイサービス、リハビリ、ヘルパー、入浴などいろいろな社会的支援サービスを受けながら日常生活を送っています。ケアマネジャーに連絡する

木村 順子氏  
 介護家族  
 病状が悪化し、すぐに真誠会セントラルクリニックに入院させてもらいました。病状以外のことでも皆さんが相談に乗って、教えてくださるのでも心強く思っています。

**米子ホスピタウン** (河崎)

真誠会セントラルクリニック  
 真誠会医療福祉連携センター  
 透析施設オアシス  
 訪問看護ステーションネットケア  
 居宅介護支援事業所真誠会  
 訪問介護弓浜真誠会  
 通所リハビリテーション真誠会  
 介護老人保健施設ゆうとびあ  
 通所リハビリテーションゆうとびあ  
 訪問リハビリテーションゆうとびあ  
 介護予防センター真誠会  
 認知症対応型通所介護 童謡の里  
 定期巡回・随時対応型訪問看護看護真誠会  
 高齢者生活支援隊

**弓浜ホスピタウン** (大崎)

介護老人福祉施設ピースポート  
 介護老人保健施設弓浜ゆうとびあ  
 通所リハビリテーション弓浜ゆうとびあ  
 通所介護 弓浜ゆうとびあ  
 認知症対応型通所介護 若竹庵  
 米子市弓浜地域包括支援センター  
 ケアプランセンター弓浜真誠会  
 ケアハウス リバーサイド

**外浜ホスピタウン**

真誠会ホスピタウンネットワーク

**米子中央ホスピタウン** (西福原・富士見町)

西福原  
 通所介護  
 真誠会セントラルローズガーデン  
 認知症対応型通所介護  
 けやき庵  
 セントラル介護予防センター  
 ケアプランセンターセントラルローズガーデン  
 真誠会セントラルレジデンス

富士見町  
 通所介護 真誠会ローズガーデン

**外浜ホスピタウン** (富益町・和町)

富益町  
 通所介護  
 富益しあわせデイサービス  
 認知症対応型通所介護  
 ダンスダンス  
 グループホーム青松庵

和町  
 複合型サービス真誠会 ふる里  
 グループホーム椿庵・桜庵

医療法人 社会福祉法人 **真誠会**

http://www.hospitown.or.jp/ info@hospitown.or.jp

QRコードからご覧の際は、スマホ、携帯ではPCビューアーでご覧ください